

結果概要

会議名称	国民健康保険あかぎ診療所休止にかかる説明会
開催日時	令和3年12月23日（木） 18時00分から20時00分まで
開催場所	赤城公民館ホール
出席者	○参加者：54名 ○事務局：総合政策部長、診療所改革室長、改革係員 スポーツ健康部長、保険年金課長、国保あかぎ診療所所長補佐
配付資料	別添のとおり
開催目的	<p>令和3年12月17日をもって医師の退職に伴い休止する国民健康保険あかぎ診療所について、赤城地区自治会長や赤城地区民生委員から、あかぎ診療所の存続を求める要望があった。</p> <p>また、渋川市議会12月定例会教育福祉常任委員会協議会において、あかぎ診療所が休止に至った経緯や国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会の議論の方向について、地域に対して説明を求める意見があった。</p> <p>これらを受け、地域に根ざした運営を進めてきたあかぎ診療所の今後のあり方については、地域と意見を交わし、今後示される市の方針に市民の理解が得られるよう、説明会を開催するもの。</p>
周知方法	<p>1 広報しぶかわ12月15日号に併せ赤城地区に対して回覧</p> <p>2 市ホームページ</p> <p>3 赤城地区自治会長及び赤城地区民生委員・児童委員に対して個別案内</p>
進行状況	<p>開会 （司会：診療所改革室長）</p> <p>挨拶 （総合政策部長）</p> <p>説明 1 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の休止について （保険年金課長）</p> <p>2 国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について （診療所改革改革係員）</p>
開催結果	<p>医師退職にかかる後任の医師確保対策を行っていないことや、これまでに診療所休止に対する説明がなく、説明会の開催が休止後になったことに対する不満の声が多く上がった。</p> <p>また、あり方検討委員会の報告が、診療所の運営方針になると一部では認識されていたことから、説明会の場において、運営に関することとあり方については異なることを改めて説明した。</p> <p>地域に対する説明会については、市の方針がまとも次第、再度行うこととしたい。</p>

## 主な発言内容

### <医師確保対策、行政の姿勢について>

- ・齋藤医師が辞め医師1名体制となることが判明した際に、なぜ医師確保を行わなかったのか。そのときに補充すべきではないか。
- ・南北の診療所時代も医師確保は苦勞したが、村長自ら足を運んで必死に行って確保してきた。今の市はそのような姿勢が全く見られない。
- ・医師確保を行わない時点で、行政の怠慢ではないか。
- ・菅野医師が辞めることが分かってから、あり方検討委員会の設置まで時間がかかりすぎている。市は廃止ありきが念頭にあるとしか思えない。
- ・一般診療を止めてまでワクチン接種会場にする必要があったのか。
- ・ワクチン接種の重点化や菅野医師への処遇をみても、行政は診療所の存続を考えていないとしか思えない。
- ・休止はそのまま廃止ではないのか。
- ・医療、教育に重点を置かなければ地域の衰退は進む一方だ。
- ・渋川医療センターを保護するために診療所、そして地域を見捨てているように思える。
- ・行政は既に診療所の廃止を決定し、議会もそれに同意する議決を行ったと聞いている。

### <医師等の退職について>

- ・菅野医師退職の理由は、副業許可の手続がされていなかったことで懲戒処分を受け、そのことが新聞報道に出たことで、組織に誰も擁護する人がいないと感じたので辞めたと本人から聞いた。
- ・菅野医師は、これまで診ていた訪問診療患者を再就職先でも引き続き受け持つとのことだが、再就職先が組織としていつまで面倒を見続けてくれるかは分からない。
- ・看護師は休止が決まった際に、放り投げられた感覚で悲壯感があった。
- ・サロンの参加者は皆困っている。

### <運営状況について>

- ・診療所運営にあたり地方交付税措置されてるはずだが、どの程度はいつているのか。そのことが市の歳入に考慮されていない。
- ・運営継続に向け、改革に向けた努力をしているのか。
- ・赤字だから廃止するのであれば、他の事業も同様なのか。
- ・市の全体の予算329億円で考えた際に、診療所の赤字補填の額が「赤字だから廃止する」と理解できる額ではない。
- ・あかぎ診療所は医師会に入っているのか。
- ・赤字のうち施設建設の借入金1,700万円を引くと2,000万円台の赤字となるが、この費用で住民の安心が維持されることが、市にとってどんなデメリットなのか。

- ・住民の健康を第一と考えるならば、経営改善を進めながらも存続するべきだ。
- ・国保直診についてデメリットが浮き彫りになるならば、改善に向けたアクションが見えるはずだが、その努力はされているのか。

#### ＜あり方検討委員会について＞

- ・あり方検討委員会に地域の意見を反映する仕組みを作るべきだ。
- ・あり方検討委員会の委員の選考にあたっては住民は付託した覚えはないので、地域に関わることを託すわけにはいかない。そのような委員会の報告を我々は受け入れられない。
- ・あり方検討委員会に公募委員を入れるべきだ。
- ・3月末までの任期として、スケジュールありきの進め方には納得いかない。地域の意見を聞く機会も含めて期間をかけて行うべきだ。
- ・あり方検討委員会は存続ありきで議論を進めていただきたい。
- ・診療所は医療だけではなく健康維持の役割を果たしてきた。金額に変えられなかった役割が反映されていない。
- ・国保直診のデメリットに、所長に権限がないとあるがそれはどの組織も同じではないのか。

#### ＜地域への説明、今後に向けて＞

- ・医師の退職が早期に判明してしているのにもかかわらず、説明会の開催が遅すぎる。
- ・3回目のワクチン接種にはあかぎ診療所で対応していただきたい。
- ・診療所はユートピア赤城のように、直営から指定管理、そして民間譲渡と、行政の責任を徐々に放棄するようなやり方は取らないでいただきたい。
- ・高齢化率をみれば10年先を見た場合、在宅医療需要が高まる。訪問医療など、不採算だからこそ公的な医療が必要なのではないか。
- ・本日の参加者全てが国保直診での存続という意見だ。
- ・参加者は地域の意見や要望を背負ってここに来ている。医師確保を行ってこなかったこと、休止の説明をしっかりと行わなかったこと、あり方検討委員会の報告に依存する体質を見ると、この説明会では納得できるものではない。
- ・南北の統合の際は市長が説明に来たが、本日は市長が来ていないので、本日の意見を持ち帰り市長含め幹部で共有していただくとともに、あり方検討委員会でも共有して、地域が納得するような方針を改めて示していただきたい。